

山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク

位置

- 京都府、兵庫県、鳥取県
- 関係市町村：京丹後市
豊岡市、香美町、新温泉町
鳥取市、岩美町
- 面積：2458.44km²
- 事務局：山陰海岸ジオパーク推進協議会
- <http://sanin-geo.jp/>



ジオパークマップ(山陰海岸ジオパーク推進協議会)

地図と空中写真から眺める

山陰海岸ユネスコ世界ジオパークは、東西約120kmに広がり、日本海の海面変動や地殻変動によって形成されたリアス海岸や砂丘をはじめとする多彩な海岸地形などが見て取れます。



○ 地理院地図 LV10



○ Landsat8画像
(courtesy of the U.S. Geological Survey)
2014年5月観測及び2016年5月観測

山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク

概要

山陰海岸ユネスコ世界ジオパークは、京都府（京丹後市）、兵庫県（豊岡市・香美町・新温泉町）、鳥取県（岩美町・鳥取市）にまたがる広大なエリアを有しており、山陰海岸国立公園を中心に、京丹後市の東端から鳥取市の西端まで、東西約120km、面積約2,458km²で、神奈川県(約2,416km²)とほぼ同じ広さになります。山陰海岸ユネスコ世界ジオパークは、日本列島がユーラシア大陸から分離した約2,500万年前にさかのぼる日本海形成に関わる火成岩類や地層、日本海の海面変動や地殻変動によって形成されたリアス海岸や砂丘をはじめとする多彩な海岸地形など、貴重な地形・地質遺産を数多く観察できます。

特徴

■玄武洞

玄武洞は約160万年前に噴出した玄武岩の溶岩からなり、見事な柱状節理と日本語の岩石名「玄武岩」の由来となったことで、国の天然記念物となっています。玄武洞の世界的価値を高めたのは京都大学の松山基範博士で、玄武洞の岩石が逆向きに磁化していることに気づき、さらに各地の玄武岩を調べ、そのころの地磁気が現在とは逆向きだったことを世界で初めて発表しました。その後地磁気は何度も逆転を繰り返してきたことが知られ、この研究はプレートテクトニクス理論へと発展しました。そのきっかけとなったのが玄武洞です。

■鳥取砂丘

中国山地から花崗岩由来の大量の砂が千代川によって日本海に運ばれ、それらがさらに潮流や波浪によって海岸に寄せ集められたり、冬季の北西の季節風に運ばれたりして形成された海岸砂丘です。

■浦富海岸

海岸西部には日本海の海面変動や地殻変動によって形成されたリアス海岸や海水等の侵食による花崗岩の断崖、奇岩、洞門が続き、海面上に大小の島や岩が散在しています。



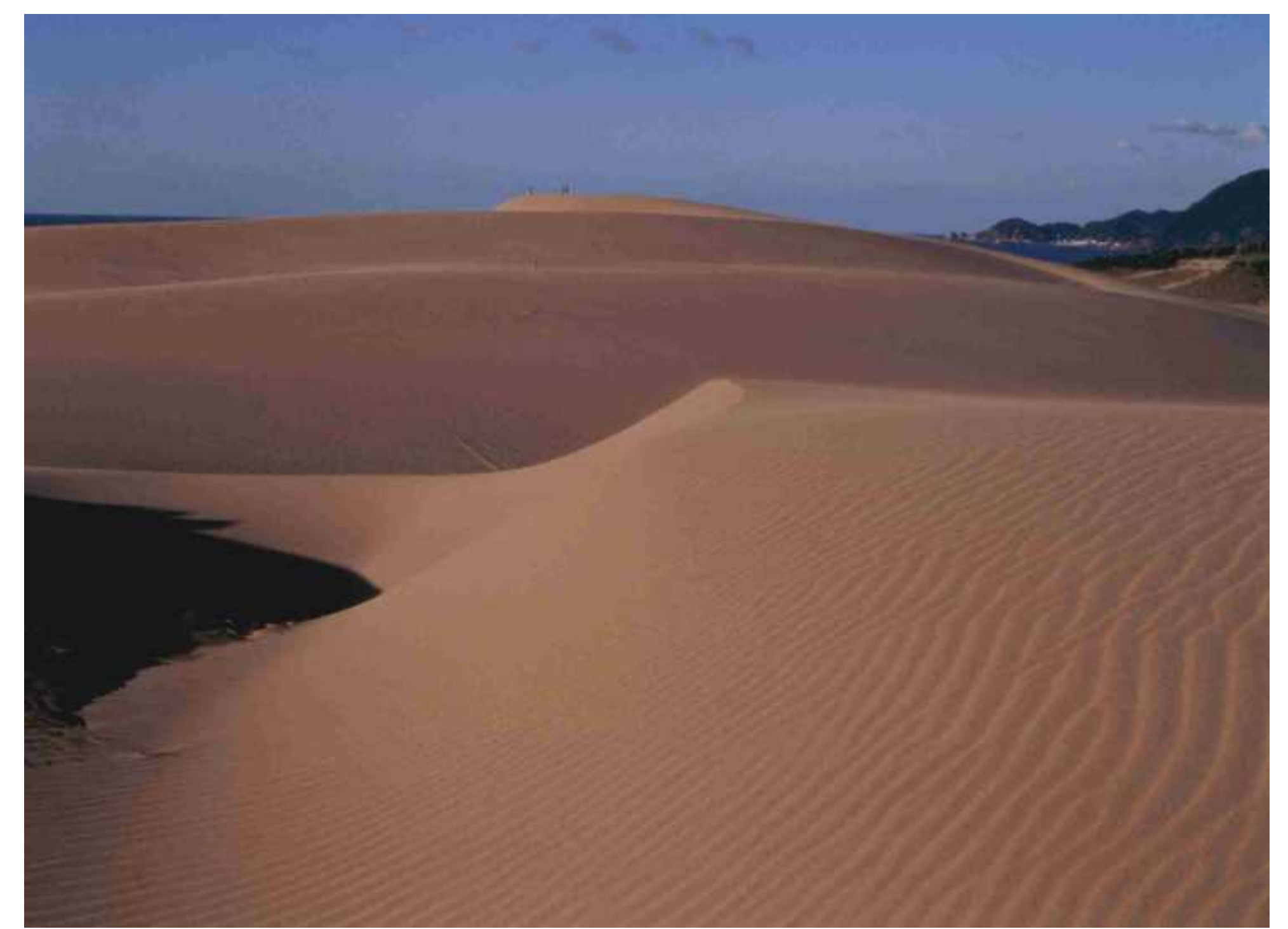
地理院地図3D



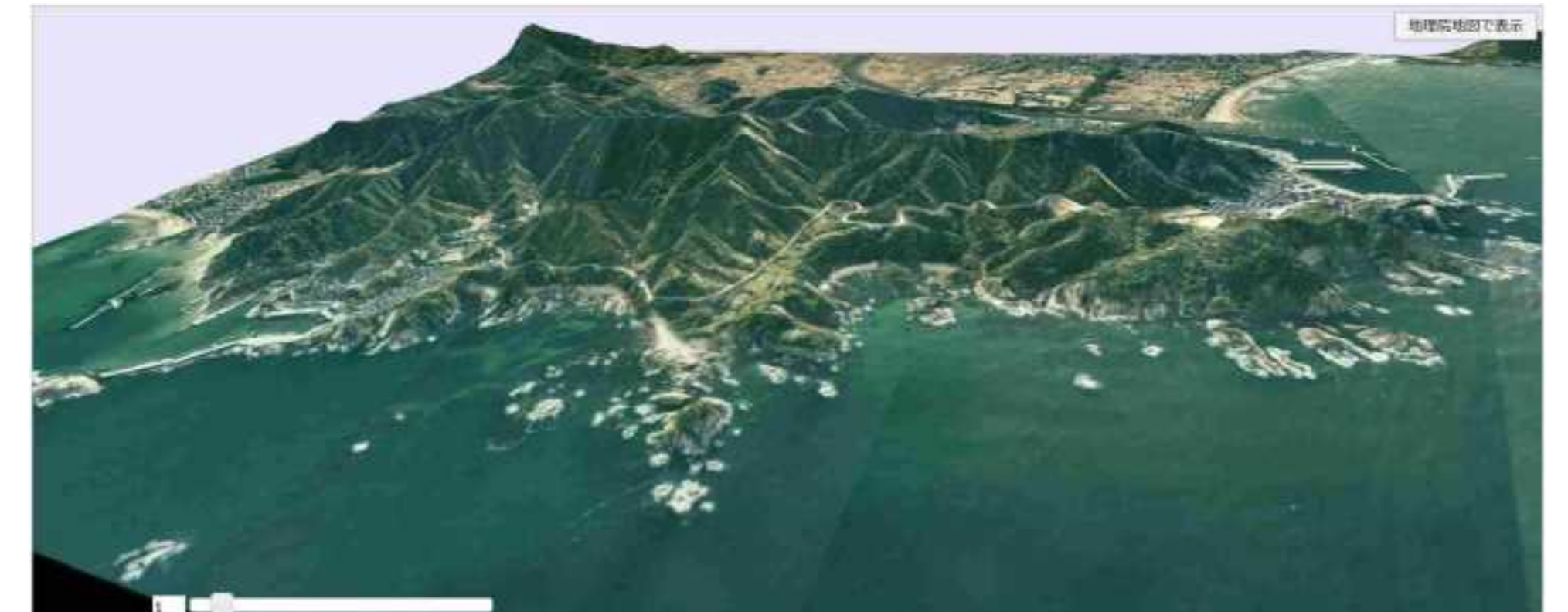
地理院地図3D



玄武洞(山陰海岸ジオパーク推進協議会)



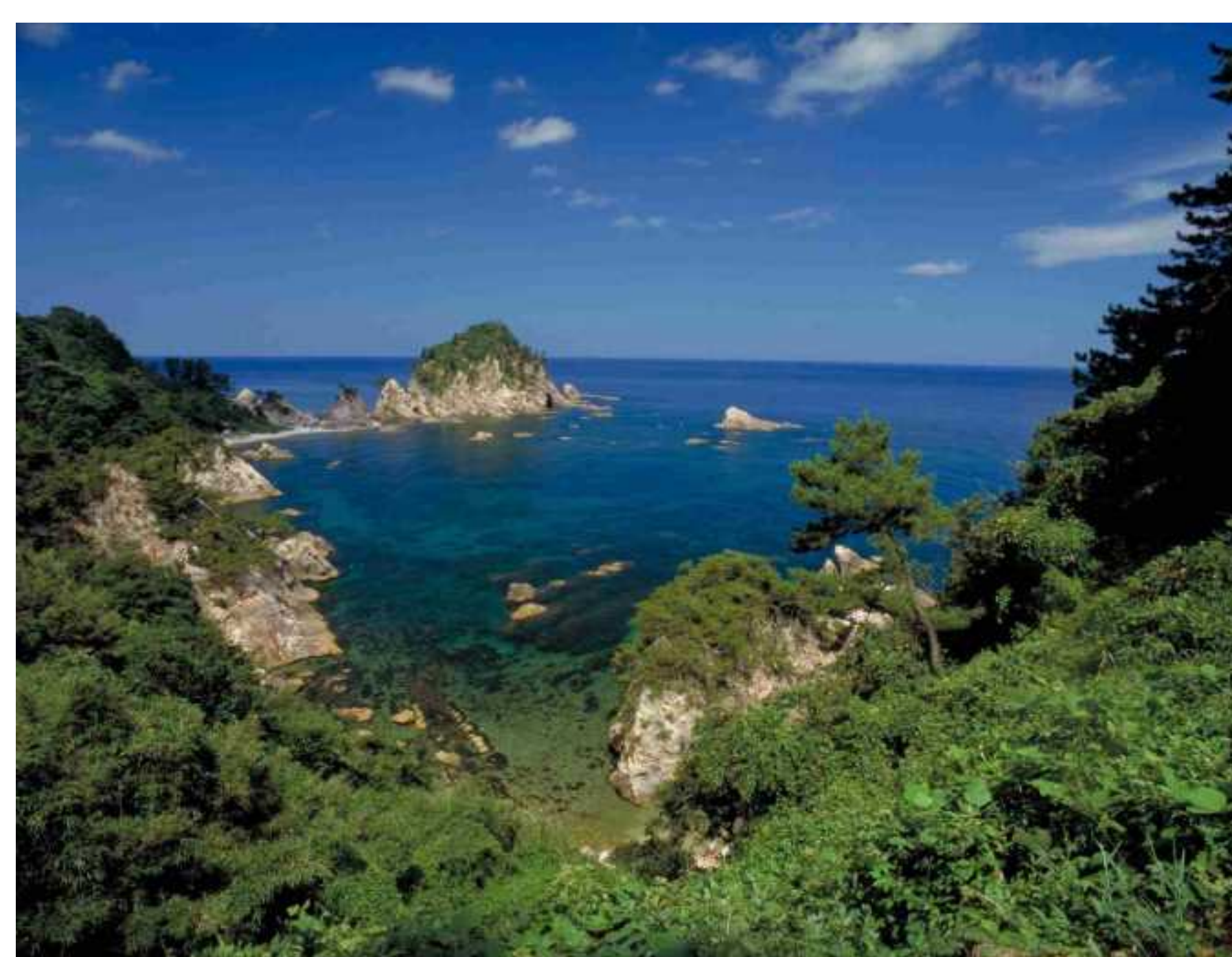
鳥取砂丘(山陰海岸ジオパーク推進協議会)



浦富海岸(地理院地図3D)



千貫松島(山陰海岸ジオパーク推進協議会)



菜種五島(山陰海岸ジオパーク推進協議会)



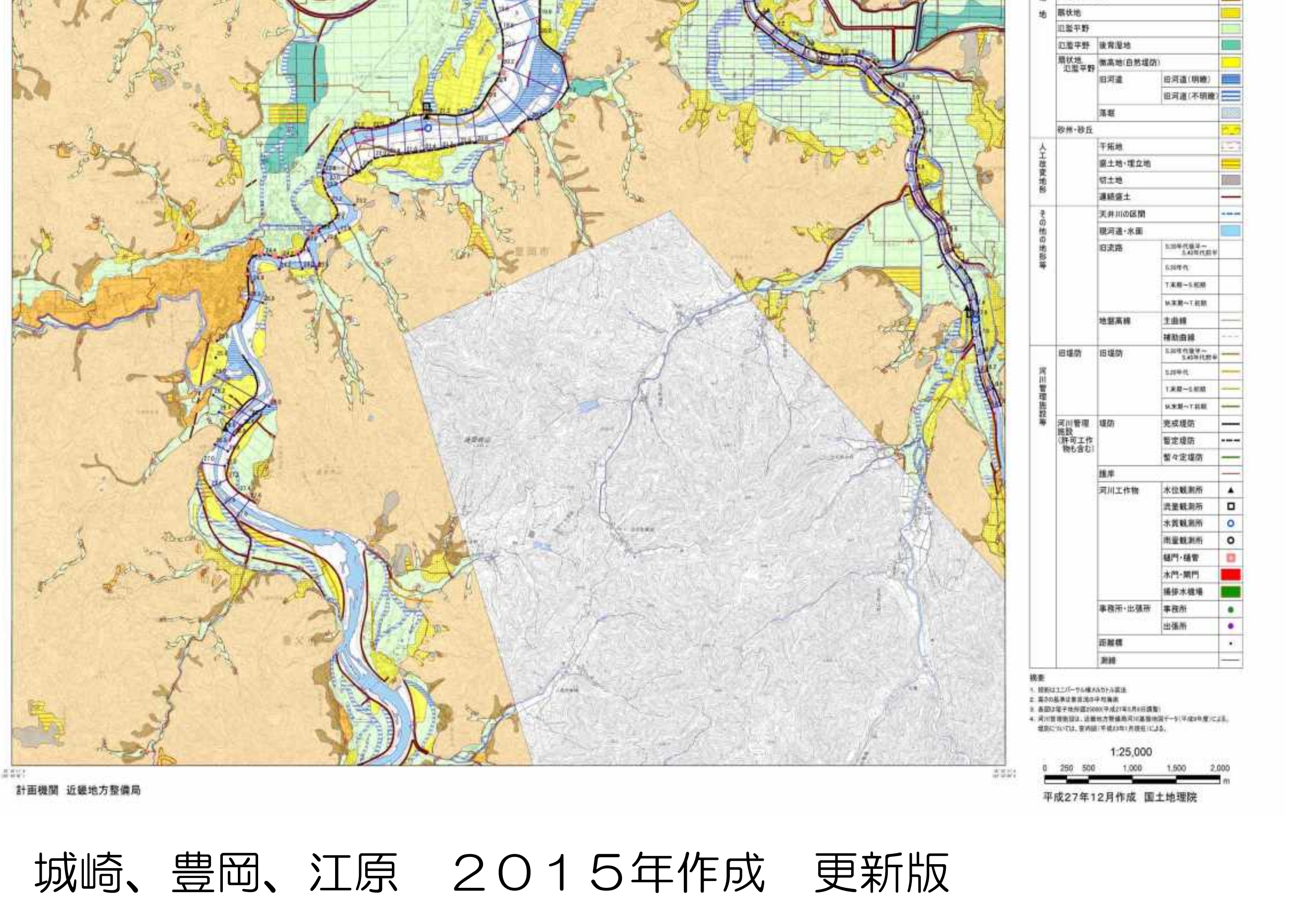
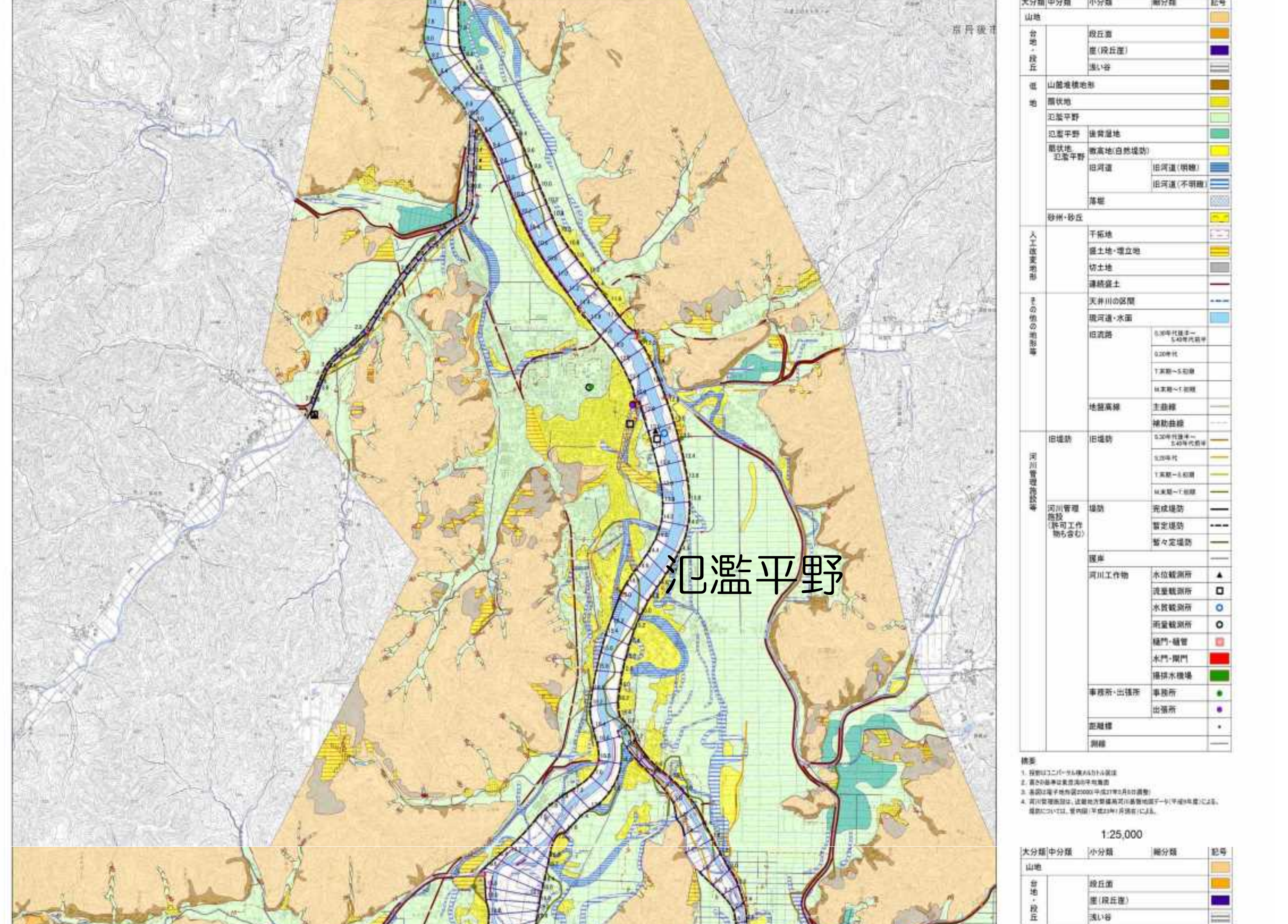
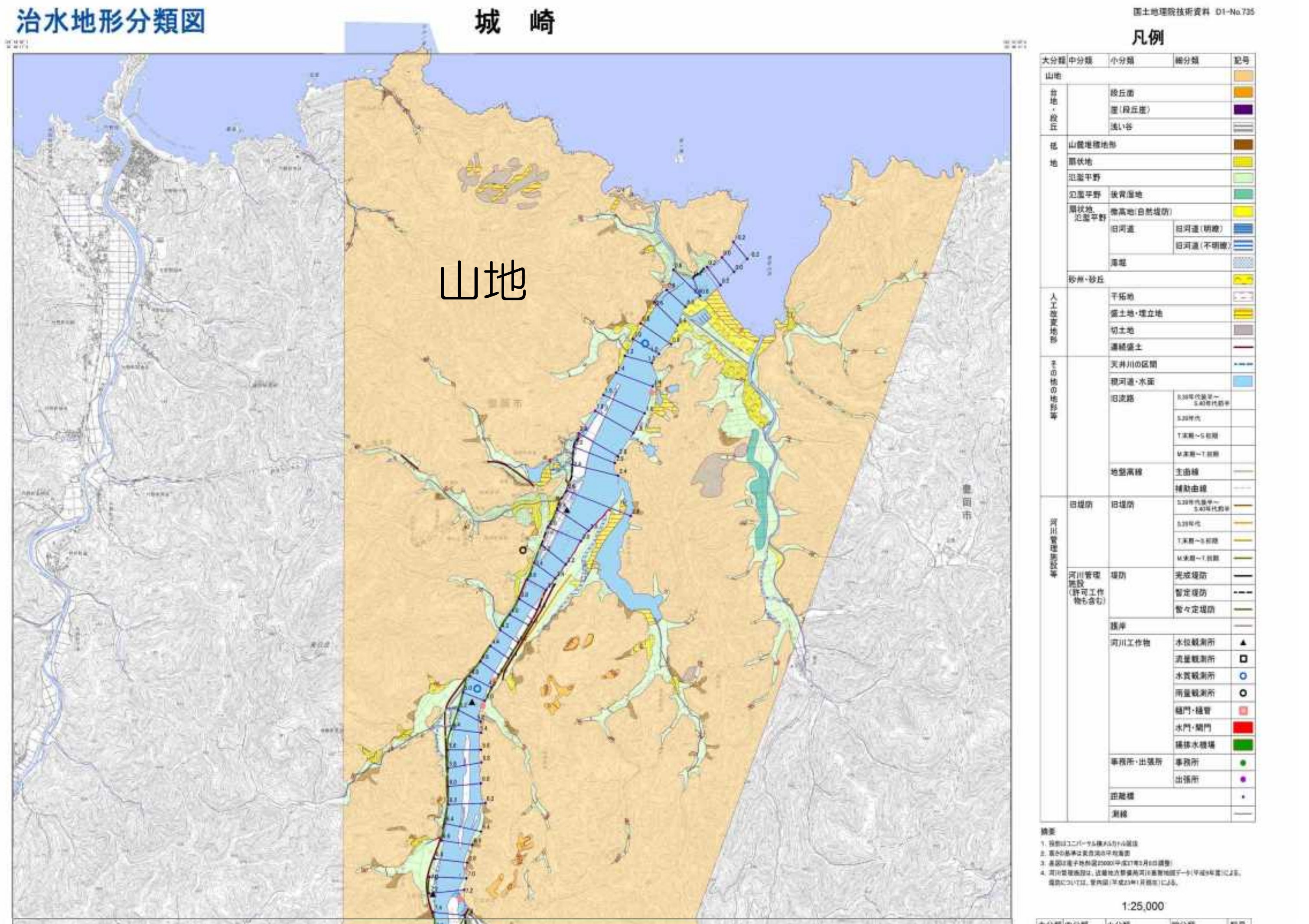
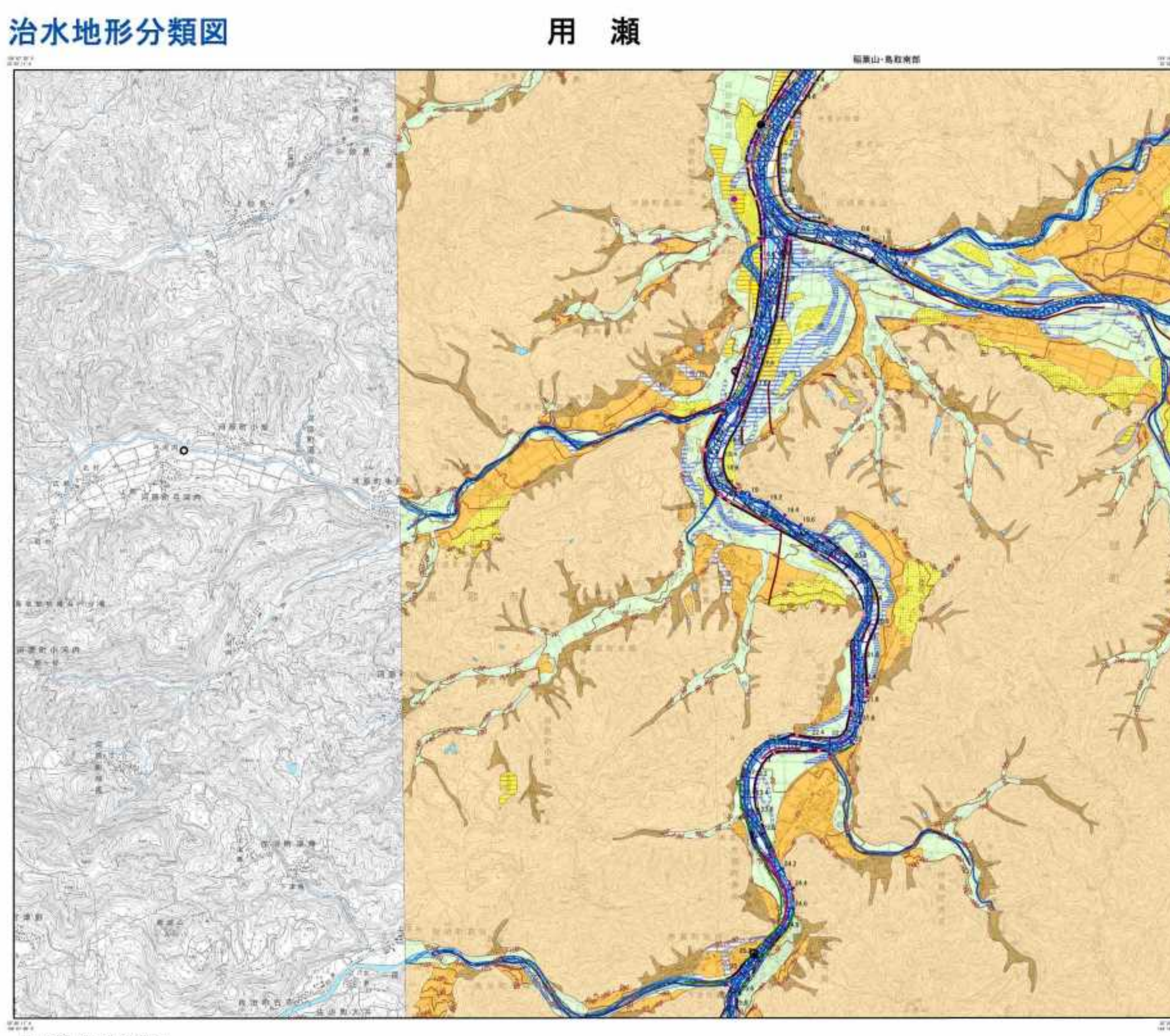
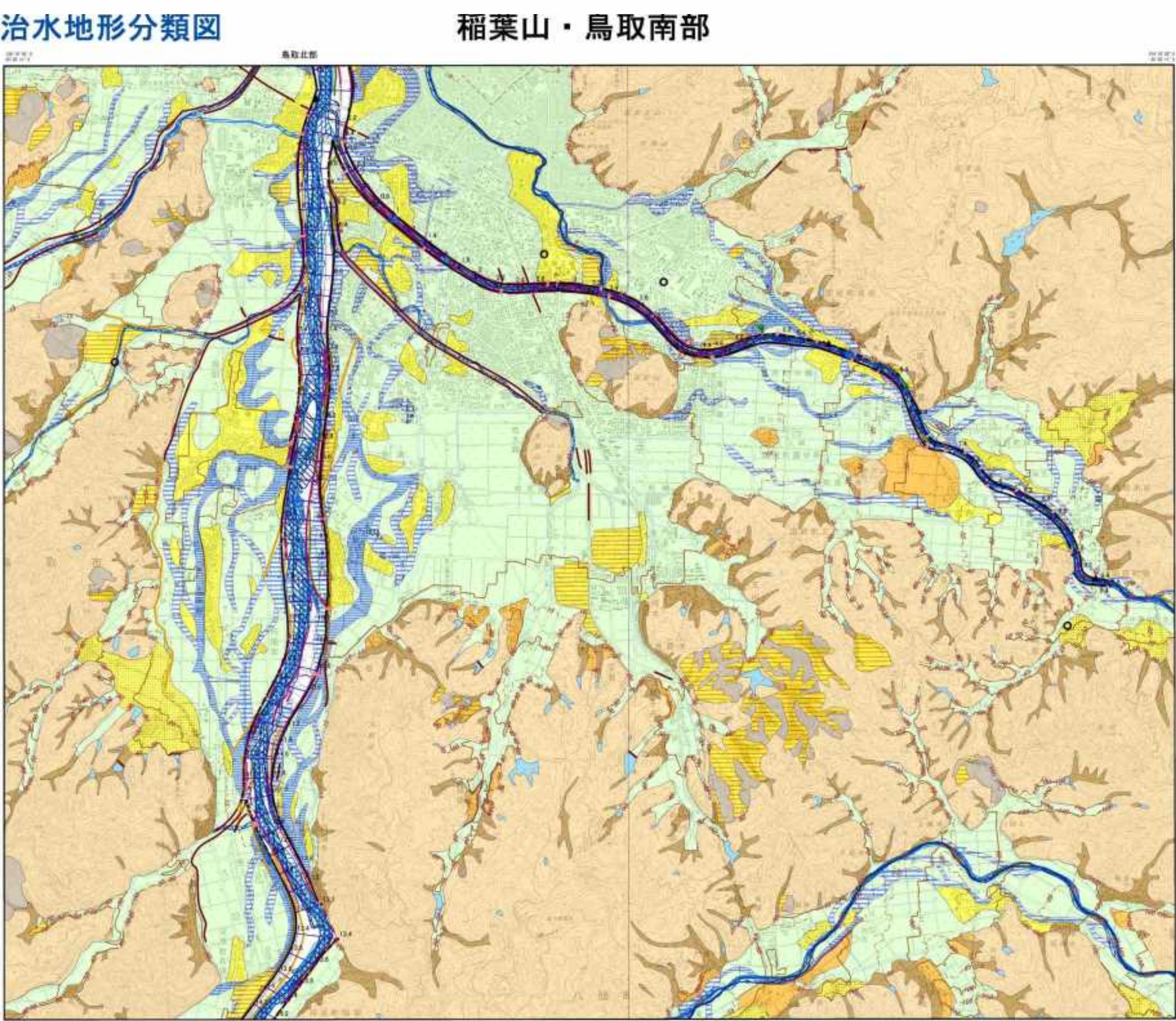
羽尾鼻(山陰海岸ジオパーク推進協議会)

山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク

主題図

治水地形分類図

山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの地域には、千代川周辺の「鳥取北部」、「稲葉山・鳥取南部」、「用瀬」や円山川周辺の「城崎」、「豊岡」、「江原」の水地形分類図が整備されています。山地、台地・段丘、氾濫平野などの低地の様子がよく分かります。

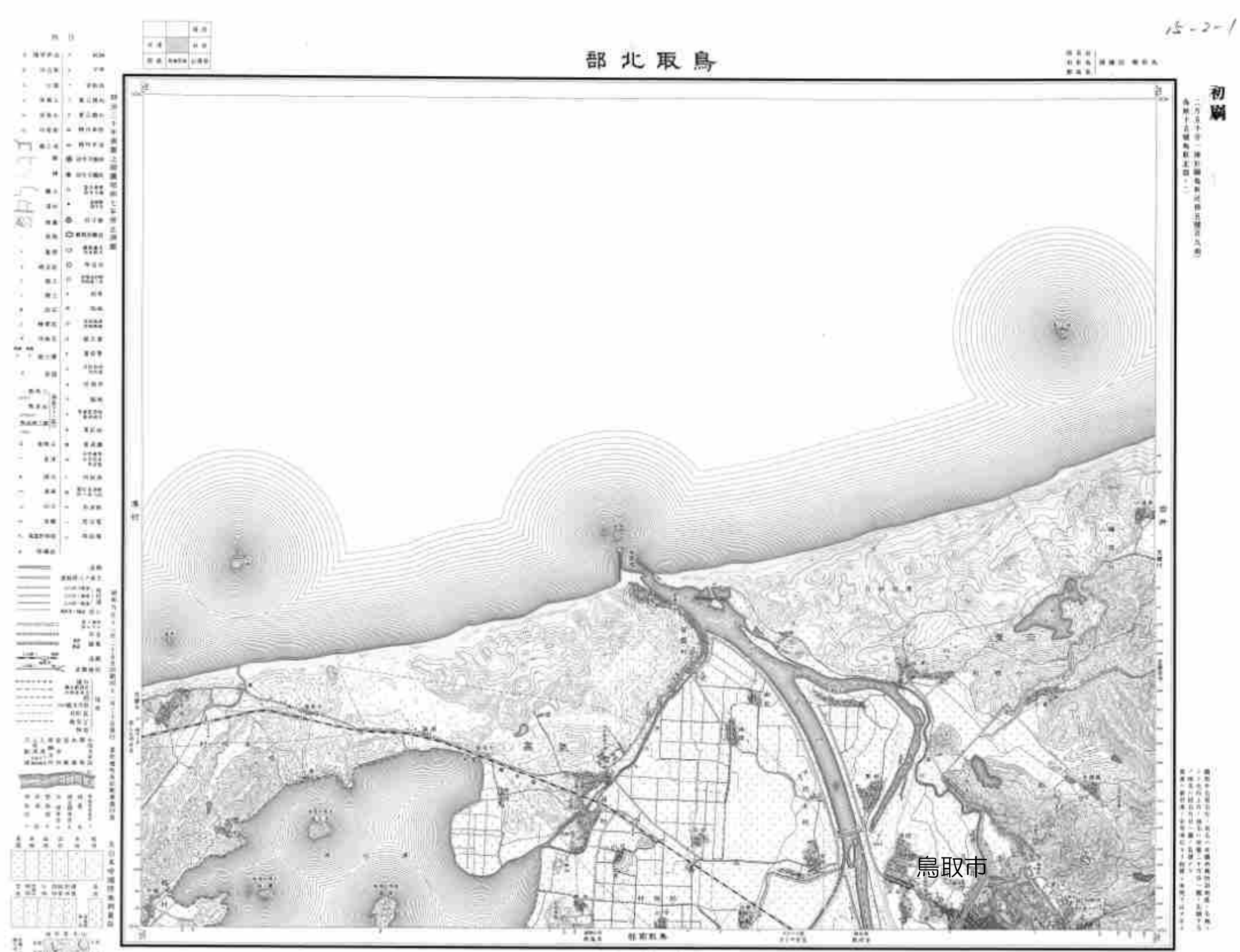


城崎、豊岡、江原 2015年作成 更新版

山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク

地図と空中写真から見る変化

過去と現在の地形図や空中写真を比較すると地形の変化や都市の変化を知ることができます。



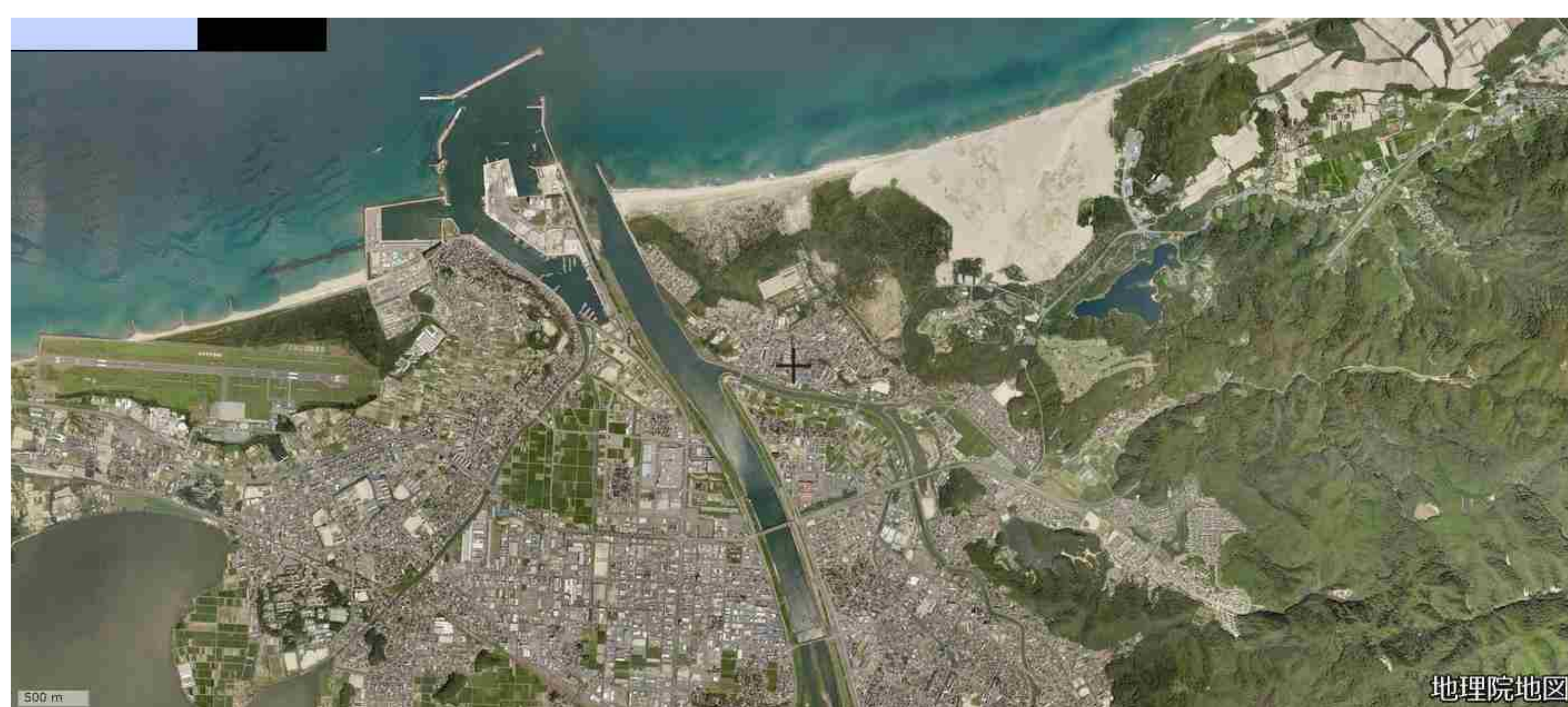
2万5千分1地形図 [鳥取北部] 明治30年測量



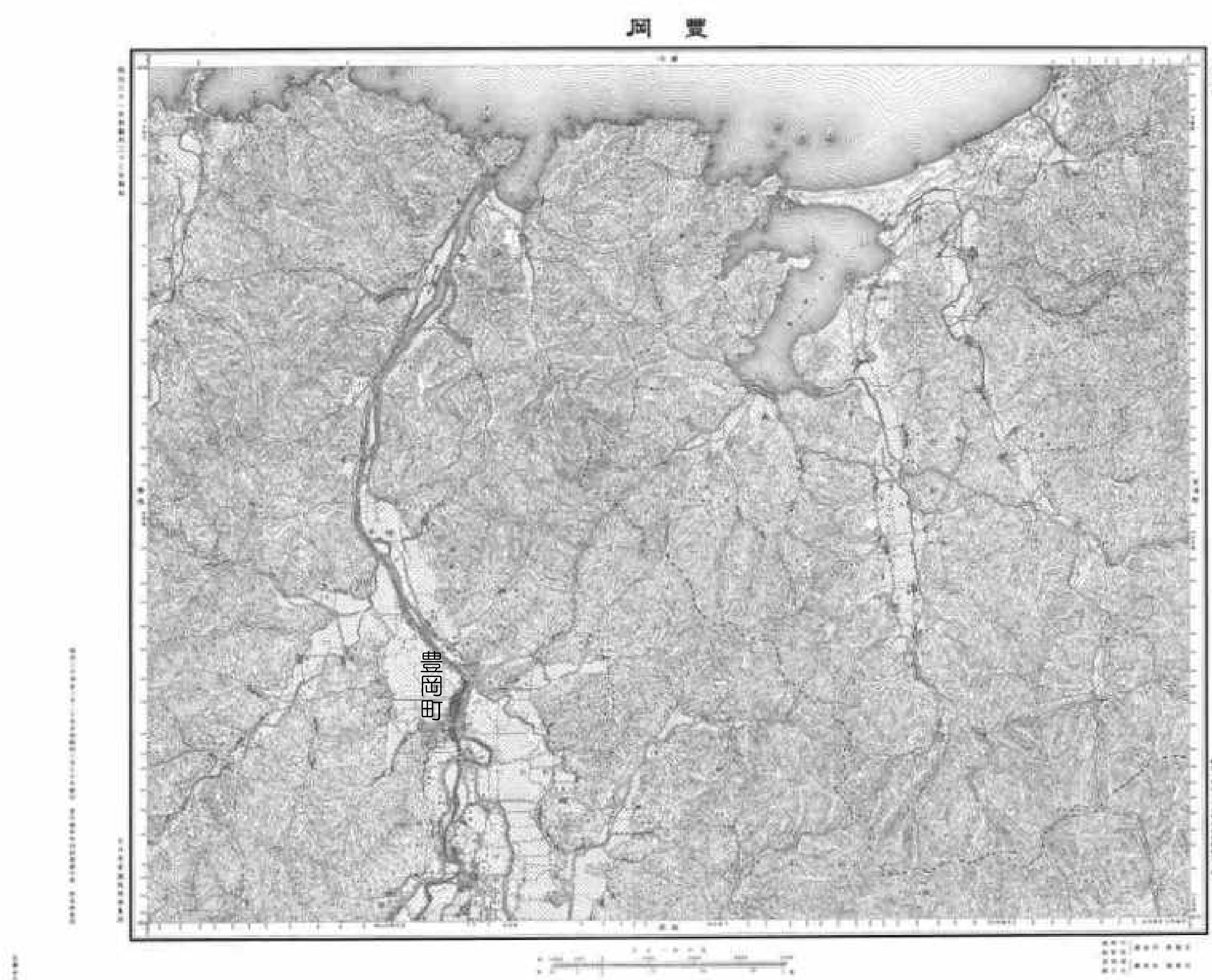
2万5千分1地形図 [鳥取北部] 平成28年測量



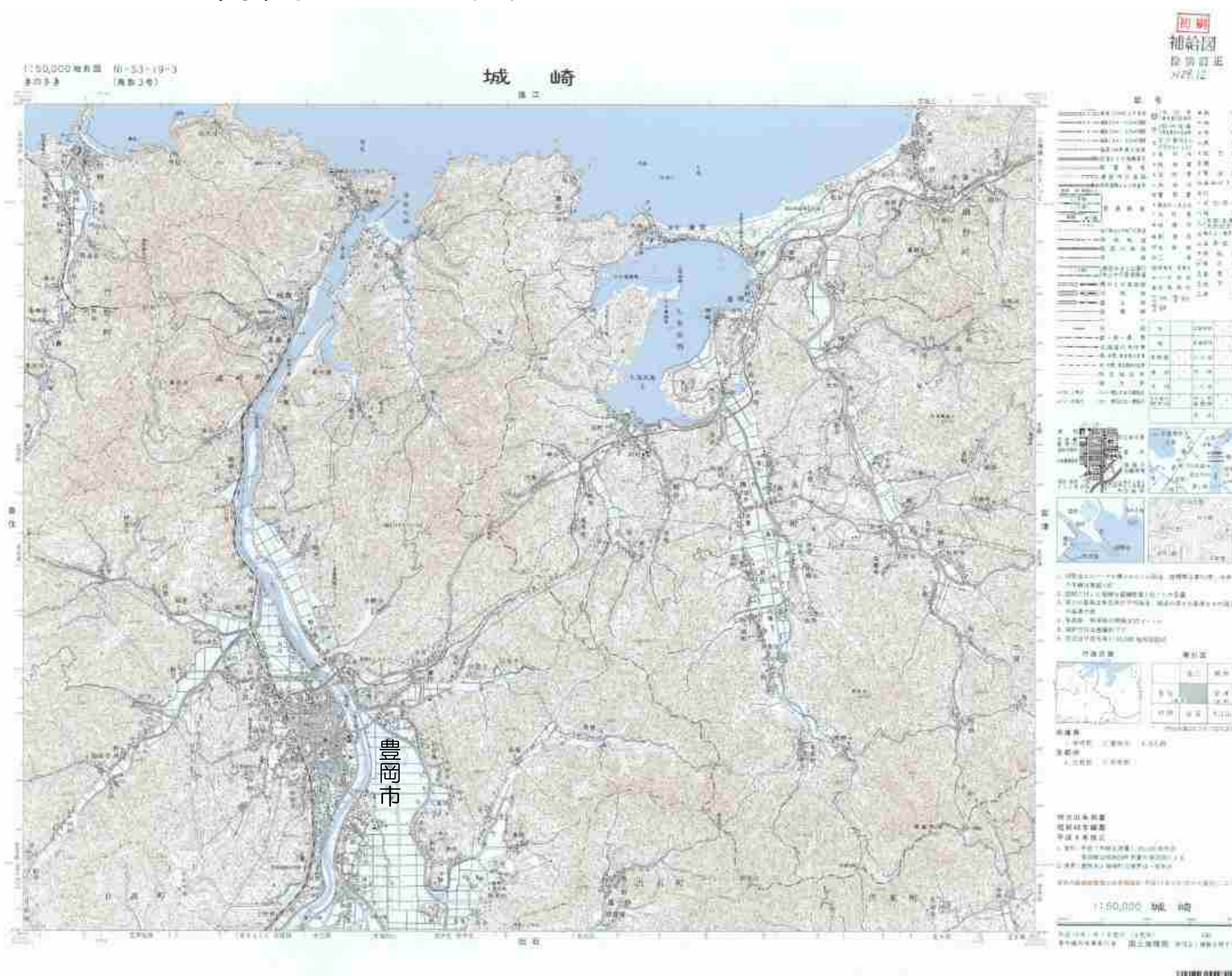
1974年撮影空中写真



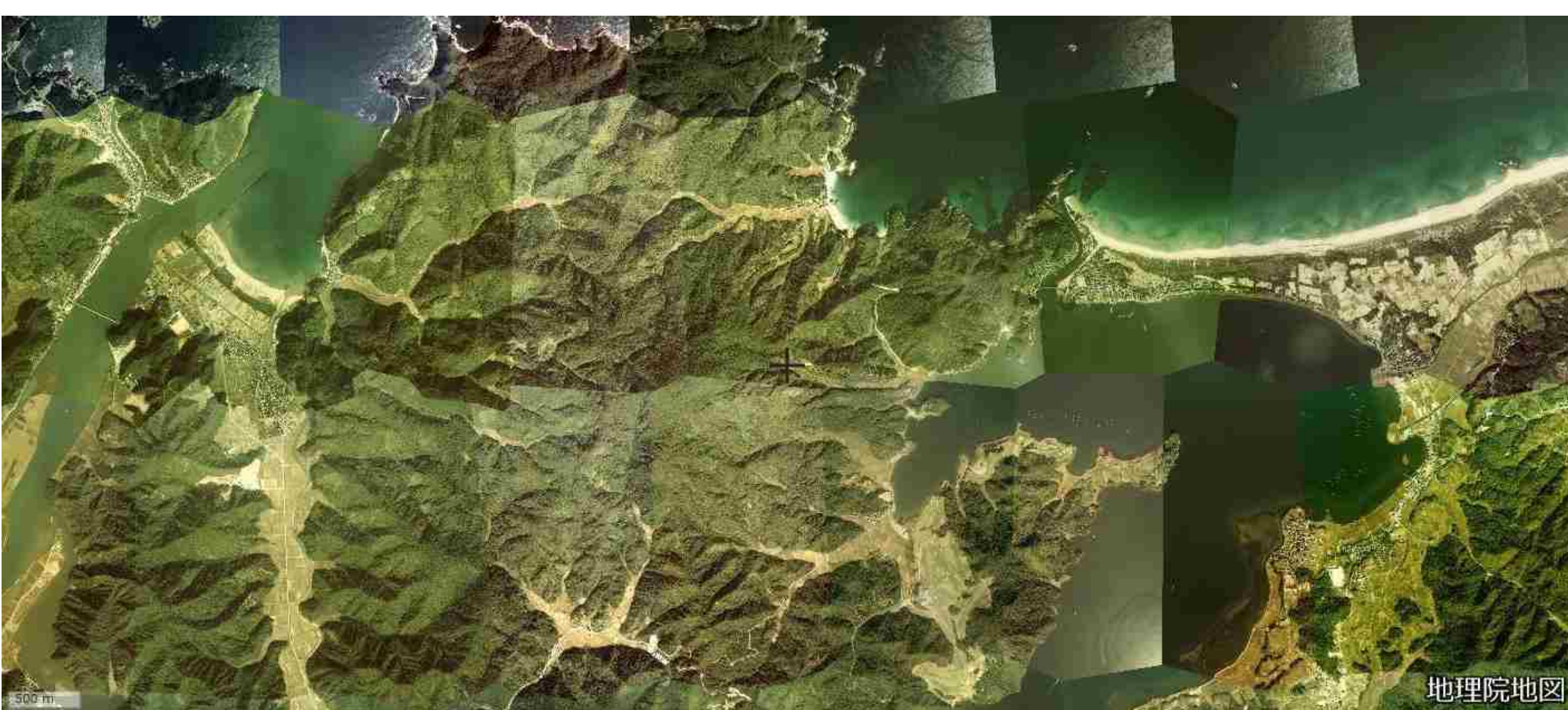
2009年撮影空中写真



5万分1地形図 [豊岡] 明治31年測量



5万分1地形図 [城崎] 平成8年修正



地理院地図 1976年撮影空中写真



地理院地図 1976年、2007年撮影空中写真

室戸ユネスコ世界ジオパーク

位置

- 高知県
- 関係市町村：室戸市
- 面積：248.2km²
- 事務局：室戸ジオパーク推進協議会
- <http://www.muroto-geo.jp/>



ジオパークマップ(室戸ジオパーク推進協議会)

地図と空中写真から眺める

室戸は、千年に1～2m隆起量を誇る世界でも有数の地域で、海岸は見上げるような段丘崖が続きその上には標高180mの段丘平坦面が広がっている様子が見て取れます。室戸半島の海岸線は東西で異なる景観となっており、最南端の室戸岬を軸にして、東側は海に急角度で落ちる断層崖が見られ、西側は海成段丘が形成されているのがよくわかります。



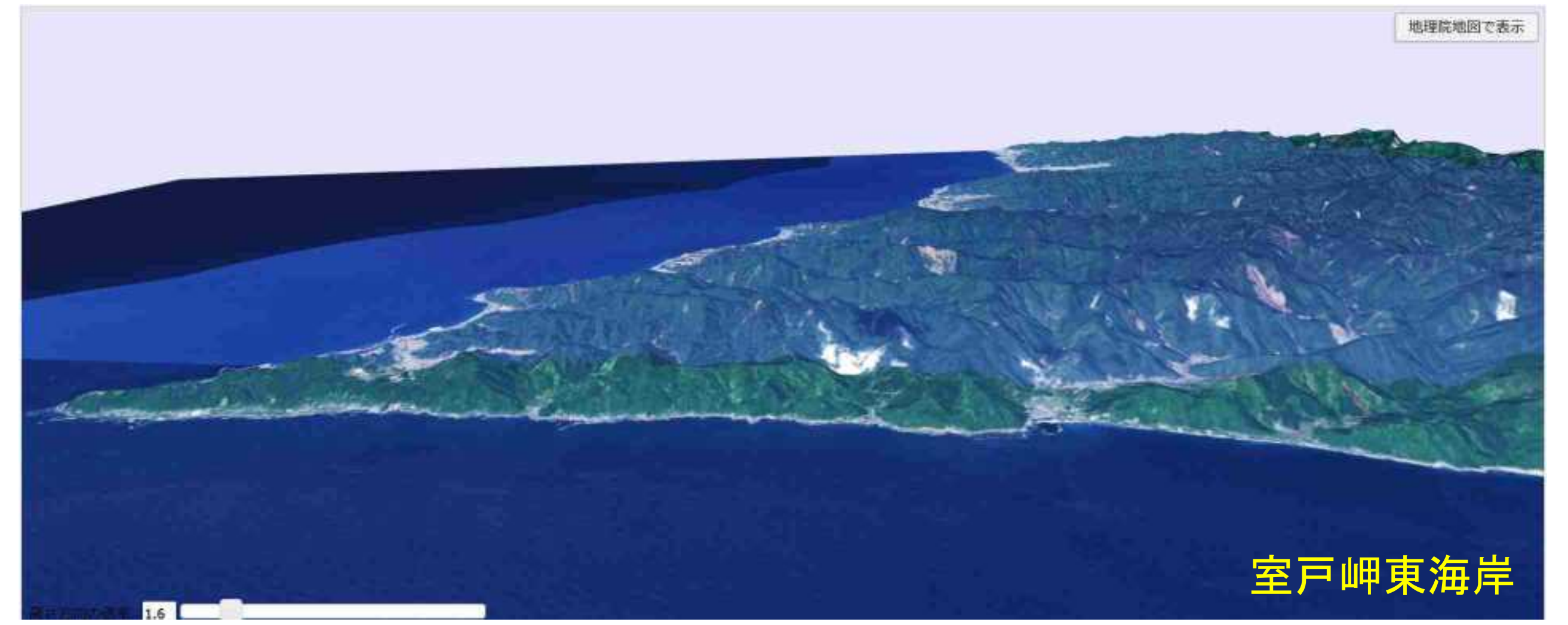
○地理院地図 LV12

○Landsat8画像
(courtesy of the U.S. Geological Survey)
2014年5月観測

室戸ユネスコ世界ジオパーク

概要

室戸では、約5,000万年前から現在にかけて南海トラフからユーラシアプレートの下に沈み込むフィリピン海プレートが関連する、地球のダイナミックな営みに深く関わる地質や地形を見ることが出来ます。室戸の海岸沿いに露出する岩石や地層を見れば沈み込みや付加作用がいかに新たな大陸地殻を生じるか、どのようにして巨大地震が地殻の急激な隆起を引き起こし人々が生活する台地を形成するのかを理解できます。



室戸岬東海岸



室戸岬西海岸

地理院地図3D

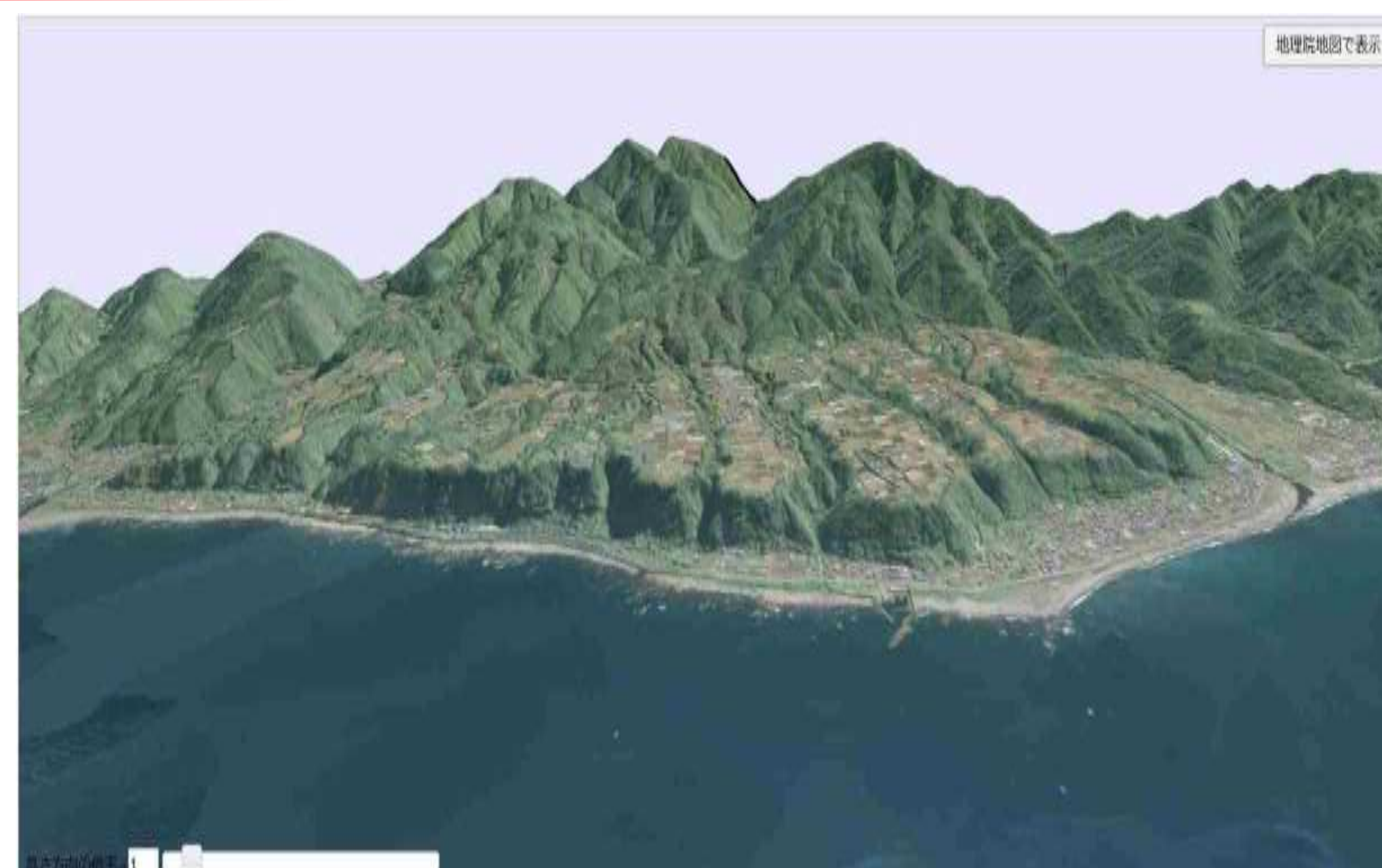
特徴

■^{はげやま}栞山-西山台地

室戸岬から西側の地域には、山の上に平らな土地が広がっています。この平地は「海成段丘」という、大地の隆起と海水準の変動により作られたものです。室戸は平均すると千年あたり約2mという速さで大地が盛り上がっています。砂中の丸い礫(くさり礫)は段丘面が海岸だった頃に波の力で円磨されたものです。大地が隆起して現在の海岸から100m以上も高い位置に今はあります。



海成段丘(室戸ジオパーク推進協議会)



海成段丘(地理院地図3D)



くさり礫(室戸ジオパーク推進協議会)

■日沖・丸山海岸・佐喜浜

溶岩が水面下の火口から噴出したり、溶岩が海に流れ込んだりして形成された、枕状溶岩の岩体を見ることが出来ます。また、海水が岩石に付着し、水分が蒸発して塩類の結晶ができ、この結晶の成長による圧力で岩石に割れ目ができ、風化が進み穴が形成されたタフォニも見ることが出来ます。ここでは隆起する前に海でできた枕状溶岩と、隆起後に陸で風化してできたタフォニの両方を見ることが出来ます。佐喜浜川上流にある加奈木の潰(つえ)は大規模な崩壊型地すべりです。



枕状溶岩(室戸ジオパーク推進協議会)



タフォニ(夫婦岩)(室戸ジオパーク推進協議会)



加奈木の潰(室戸ジオパーク推進協議会)

室戸ユネスコ世界ジオパーク

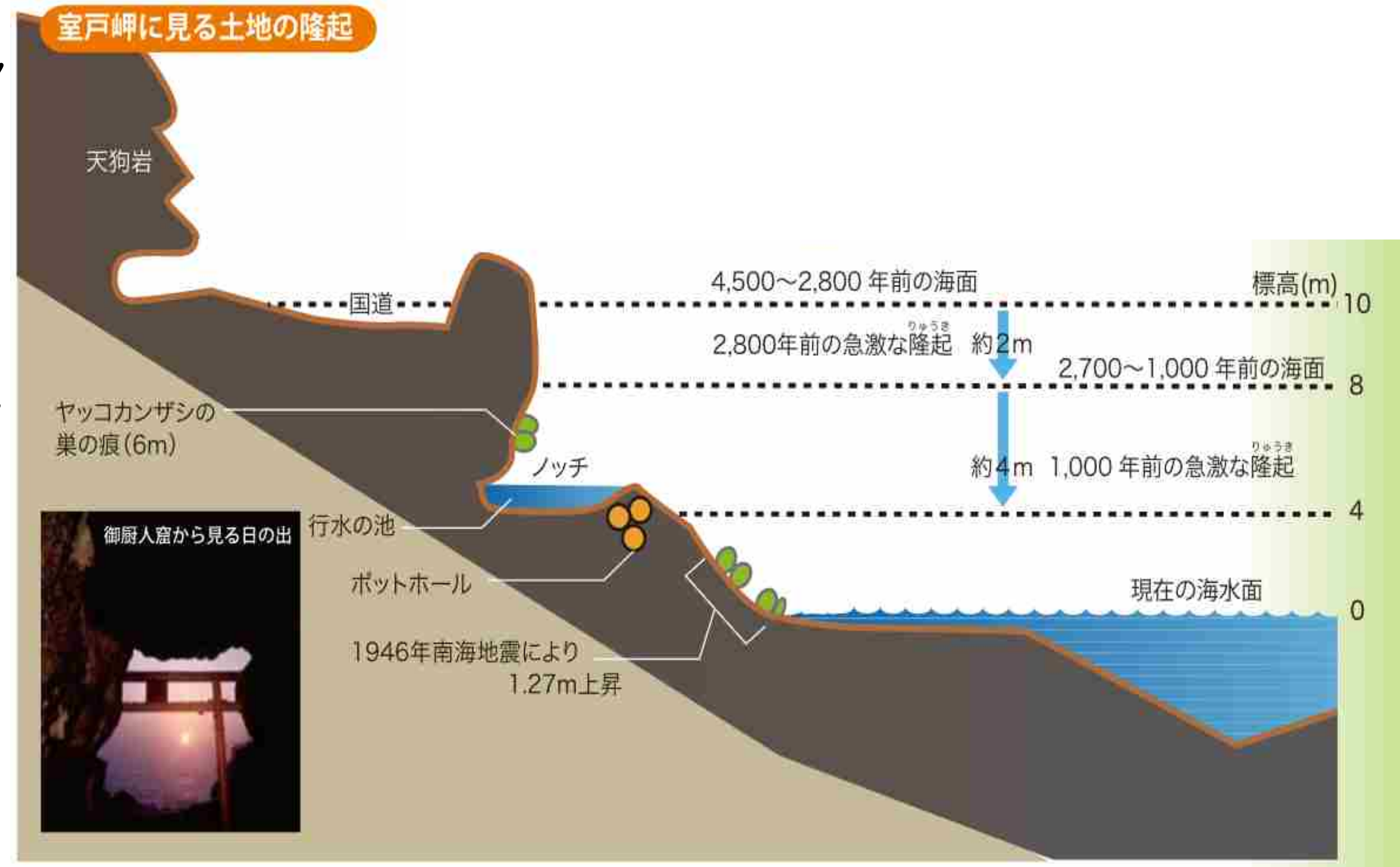
■室戸岬

巨大地震が繰り返し発生した痕跡を見ることができます。空海が修行したとされる海食洞の御厨人窟（みくろど）と神明窟（しんめいくつ）は、現在は海面より10m近い標高に位置しています。

約2800年前までは波打ち際にありましたが、繰り返しおこった巨大地震によって土地が隆起し、現在の高さになりました。



御厨人窟・神明窟
(日本ジオパークネットワーク)



室戸岬に見る土地の隆起
(室戸ジオパーク推進協議会)

タービダイト（乱泥流堆積物）とは、砂や泥が海水と混ざった流れによって海底に降り積もってできたシマシマの地層のことです。水平に堆積した後、回転して立ち上がったので、縦向きの縞模様になっているのです。ホルンフェルスは、泥や砂がマグマの熱によって焼かれて変質した岩のことです。



タービダイト層(室戸世界ジオパークセンター)



ホルンフェルス(室戸世界ジオパークセンター)



南海地震により隆起した海岸
(室戸ジオパーク推進協議会)

■行当一黒耳海岸

行当岬新村海岸には、約4,000万年~3,000万年前に、海底に堆積した地層が分布しています。ここでは、砂岩泥岩の互層から成るタービダイト層、褶曲構造、水の流れにより海底に刻まれた漣痕、海底を生物がはった痕跡の化石、地震の化石と言われる砂岩岩脈など、海底で起こった様々な事件を伝える地層を見ることができます。



タービダイト層(室戸ジオパーク推進協議会)



漣痕(室戸ジオパーク推進協議会)



褶曲(室戸ジオパーク推進協議会)

室戸ユネスコ世界ジオパーク

地図と空中写真から見る変化

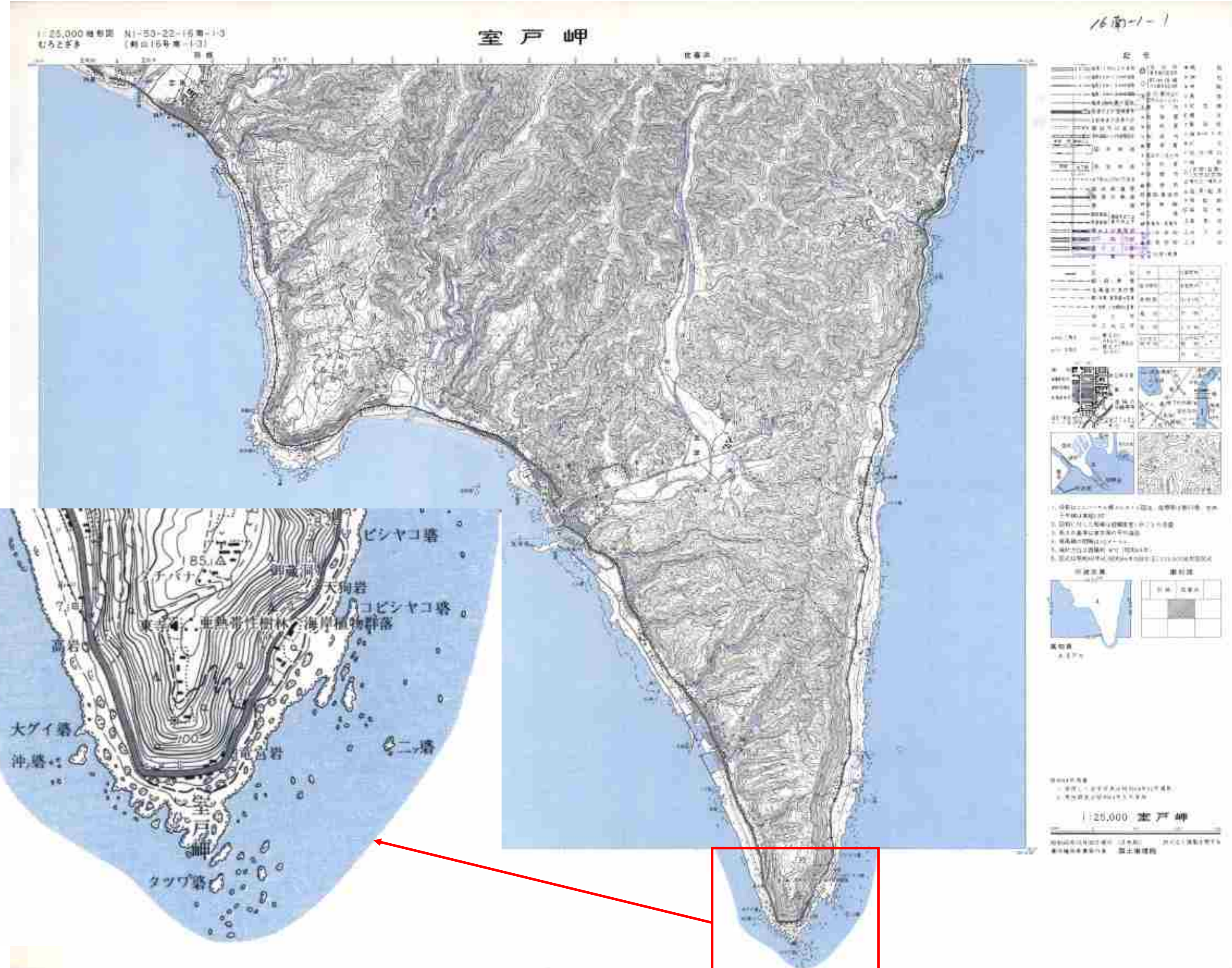
過去と現在の地形図や空中写真を比較すると地形の変化や都市の変化を知ることができます。



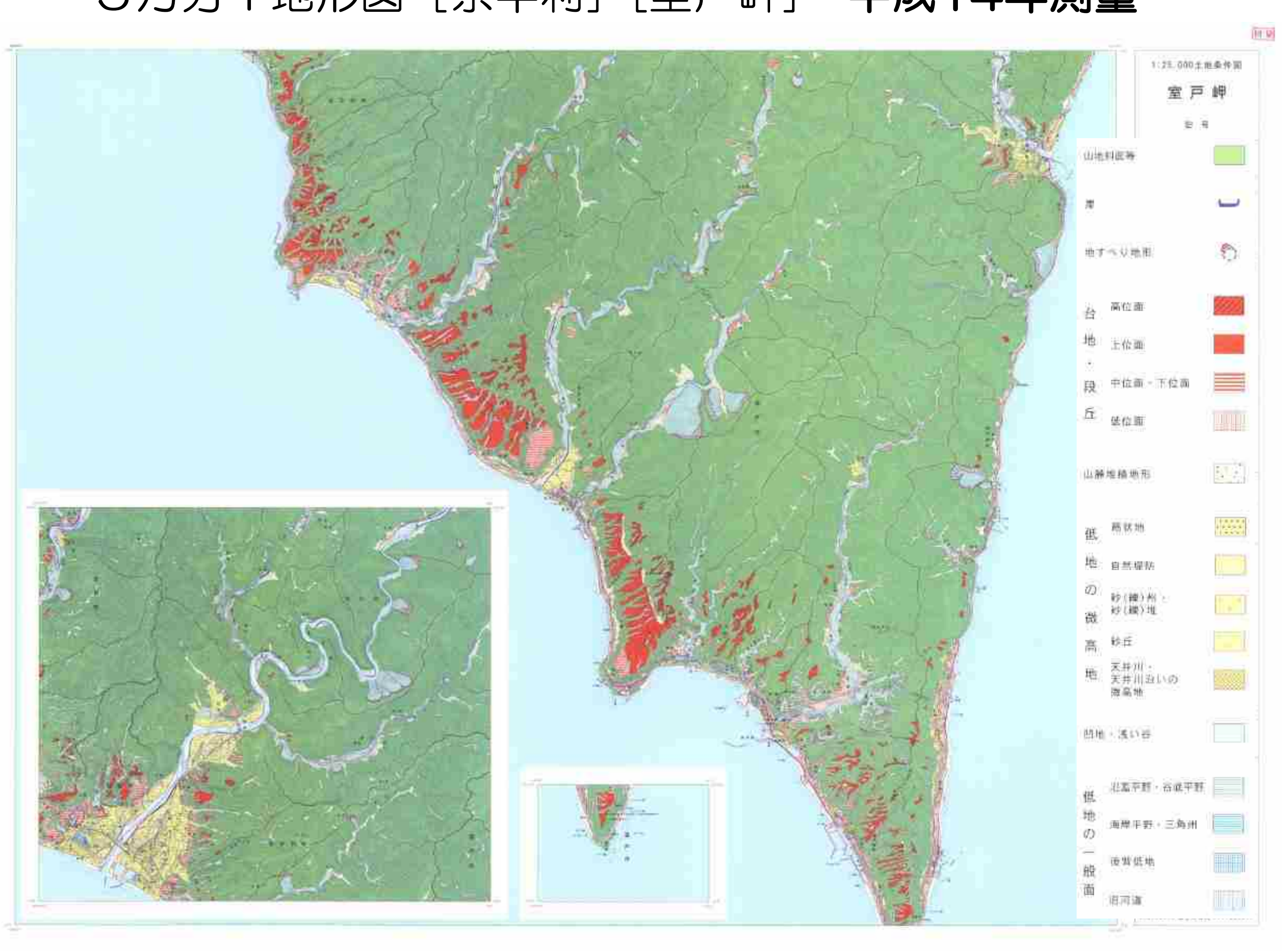
5万分1地形図 [奈半利] [室戸岬] 明治40年測量



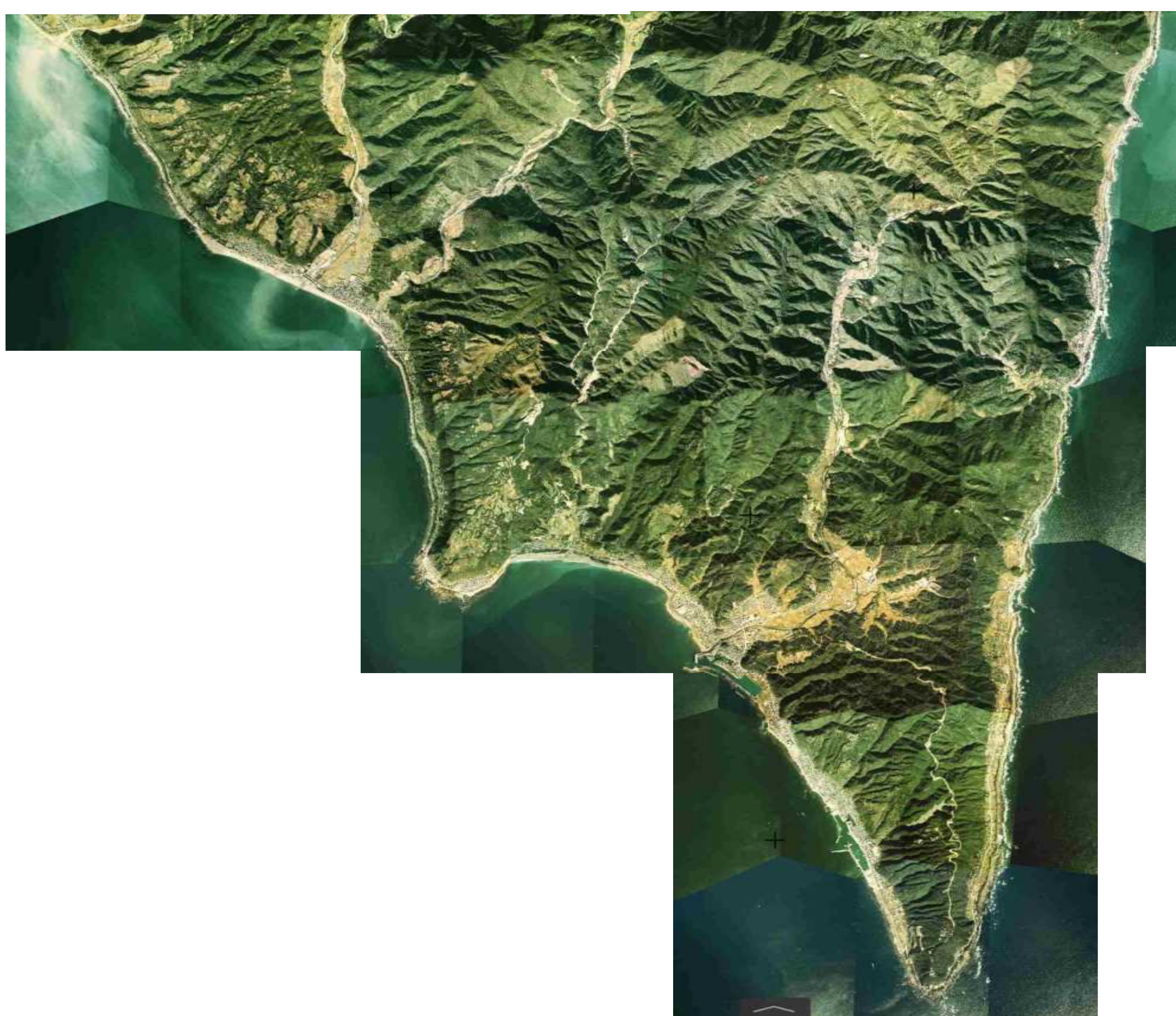
5万分1地形図 [奈半利] [室戸岬] 平成14年測量



2万5千分1地形図 [室戸岬] 昭和44年測量



1:25,000土地条件図 [室戸岬] 平成18年調査平成21年発行



地理院地図 空中写真 1975年撮影



地理院地図 空中写真 2017年撮影